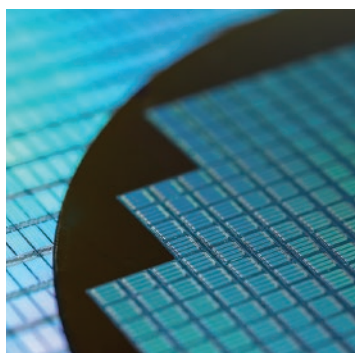
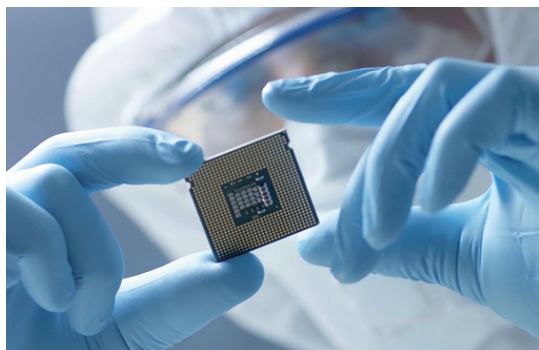
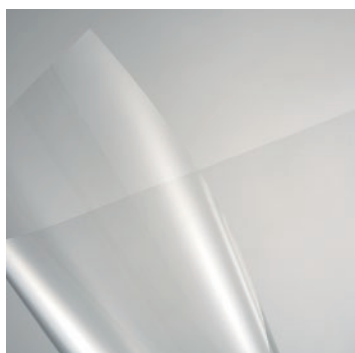


DNP Report vol.116

株主通信 (証券コード:7912)

[特集]

注力事業領域の取り組み ～エレクトロニクス部門～





「未来のあたりまえをつくる。」
～より良い未来のための取り組みを加速～

代表取締役社長

よしなり
北島 義斉

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

DNPグループは今、環境・社会・経済の大きな変動のなかで、長期も見据え、自らが「より良い未来」をつくり出すための事業活動を展開しています。独自の「P&I(印刷と情報)」の強みを掛け合わせ、多様なパートナーとの連携を深めて、人々の身近に欠かせない「あたりまえ」の価値の創出に努めています。

具体的には、2023-2025年度の3か年の中期経営計画を推進しており、【事業戦略】【財務戦略】【非財務戦略】に基づく統合的な取り組みを通じて、持続的な事業価値・株主価値の創出に注力しています。

【事業戦略】では、中長期の強靱な事業ポートフォリオの構築を進めるとともに、注力事業領域を中心に収益の拡大を加速させています。2024年3月期第2四半期(2023年4-9月)については、三つの事業セグメントで、主に次のような取り組みを推進しました。なお、事業ポートフォリオと事業セグメントとの関係については、3ページの図をご参照ください。

●スマートコミュニケーション部門

新規事業として位置付けている「コンテンツ・XRコミュニケーション関連」で、リアルとバーチャルの空間の融合等によって人々の体験価値を高めるXRコミュニケーション事業の強化に努めました。また、脳神経科学とITの融合等によるブレインテック事業とXR事業に強みを持つ株式会社ハコスコをグループ会社化しました(P6参照)。

●ライフ&ヘルスケア部門

成長牽引事業の一つ「モビリティ・産業用高機能材関連」では、自動車生産台数の回復もあり、リチウムイオン電池用バッテリーパウチが車載向け・IT機器向けともに増加しました。太陽電池関連の製品は、世界的な需要の高まりによって好調に推移しました。新規事業である「メディカル・ヘルスケア関連」では、シミックCMO株式会社をグループ会社とし、今年6月からシミックグループと共同で、原薬から製剤までの一貫製造や付加価値型医薬品の開発などを行っています。

●エレクトロニクス部門

当部門の「デジタルインターフェース関連」と「半導体関連」は、ともに成長牽引事業として、集中的な投資を行っています。この「DNP Report」の特集で紹介していますので、4-5ページをご覧ください。「デジタルインターフェース関連」は、有機ELディスプレイ製造用メタルマスクが、スマートフォンでの有機ELディスプレイ採用拡大にともなって堅調に推移しました。一方、「半導体関連」は、半導体市場の減速によって半導体パッケージ用のリードフレーム等が減少しました。そのなかでも、ナノメートル(10億分の1メートル)単位の微細な型を対象物に押し付けてパターンを形成するナノインプリント製品の量産に向けて、SCIVAX株式会社と資本業務提携を行いました。今年4月に設立した同社との合併会社、ナノインプリントソリューションズ株式会社を活かし、量産ニーズに応じていきます。

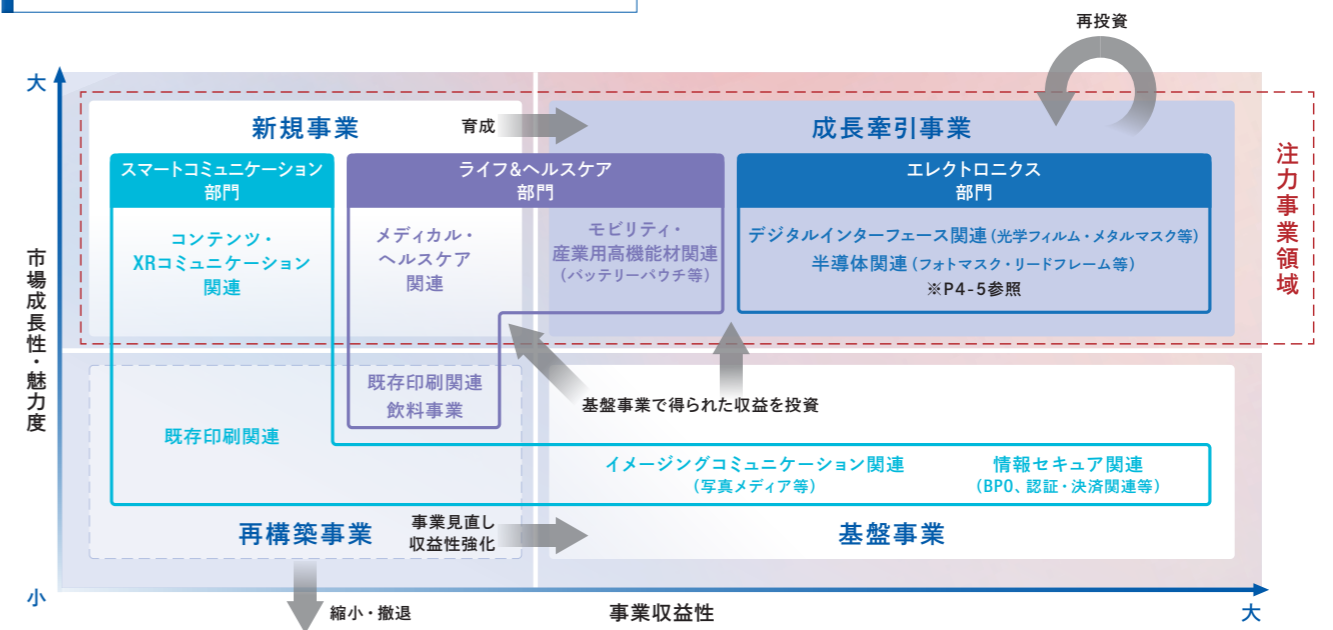
中期経営計画の【財務戦略】では、創出したキャッシュを事業のさらなる成長のための投資と株主還元適切に配分していきます。

また、DNPグループは、健全な社会と経済、快適で心豊かな人々の暮らしは、サステナブルな地球の上で成り立つと捉えています。そのため【非財務戦略】のなかで、脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に向けて、「環境への取り組み」に力を入れています。また「人への投資の拡大」と「知的資本の強化」も推進し、長期的な成長を支える経営基盤を強化しています。

こうした取り組みの結果、2024年3月期第2四半期の連結業績は、売上が前年同期比3.8%増の6,937億円、営業利益が0.2%減の275億円、経常利益が2.1%増の374億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券の売却にともなう特別利益の計上もあり、172.9%増の762億円になりました。

私たちは、持続可能なより良い社会、より心豊かな暮らしの実現をめざして、DNPとは異なる強みを持ったパートナーとの共創やM&Aなども行い、価値の創出を加速させていきます。今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

事業ポートフォリオと各セグメントの位置づけ



成長牽引事業・新規事業からなる注力事業領域への集中投資と事業構造改革を推進し、
事業環境の変化に対して強い事業ポートフォリオの構築をめざす

【特集】注力事業領域の取り組み ～エレクトロニクス部門～

当部門の主な事業は、ディスプレイ用光学フィルムや、有機ELディスプレイ製造用のメタルマスクなどの「デジタルインターフェース関連」、半導体製品の製造用フォトマスクなどの「半導体関連」の二つです。DNPは、これらの全体を「成長牽引事業」と位置付け、積極的な設備投資を進めます。

注力事業領域 / 成長牽引事業

デジタルインターフェース関連

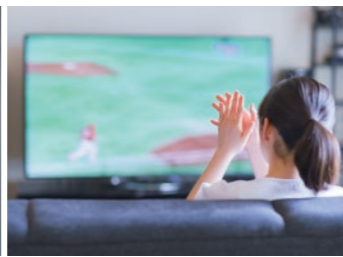
DNPは、世界トップシェアの有機ELディスプレイ製造用メタルマスクやディスプレイ用光学フィルムを中心に、ディスプレイの世界市場の拡大に合わせ、積極的な設備投資を進めていきます。計画では、黒崎工場(福岡県)のメタルマスク生産ライン新設などに約200億円、三原工場(広島県)の広幅光学フィルム生産ライン新設に130億円以上を投資し、生産能力を拡大します。また、XR(Extended Reality)や車載用ディスプレイなどの用途も拡大していくことで、リアルとバーチャルをシームレスにつなぎ、情報社会の進化に貢献していきます。これらの施策により、2025年度の当事業の売上を、2022年度比112%へと拡大していきます。



広幅コーティング装置を増設した三原工場(広島県)のイメージ



ディスプレイ用光学フィルム



光の反射を制御して照明等の映り込みを低減する「光学設計技術」

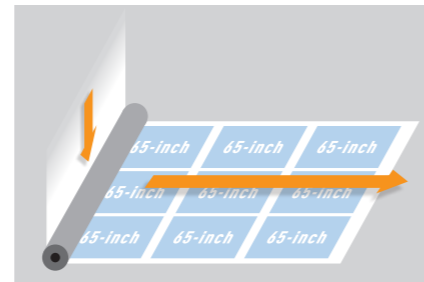


メタルマスクを用いて製造した有機ELディスプレイのイメージ

光学フィルム

高機能光学フィルムの広幅コーティング装置を増設
～製造ラインを増強し市場や顧客企業のニーズに先行して対応～

大型テレビ向けの高機能光学フィルムの製造に最適な最大2,500mm幅に対応可能なコーティング装置を三原工場(広島県)に増設。2025年度上期に量産を開始する予定です。生産能力は面積ベースで従来と比較して15%以上向上。65インチ(ヨコ1436.4mm×タテ809.0mm)の大型テレビ向けのフィルムの生産性を引き上げます。

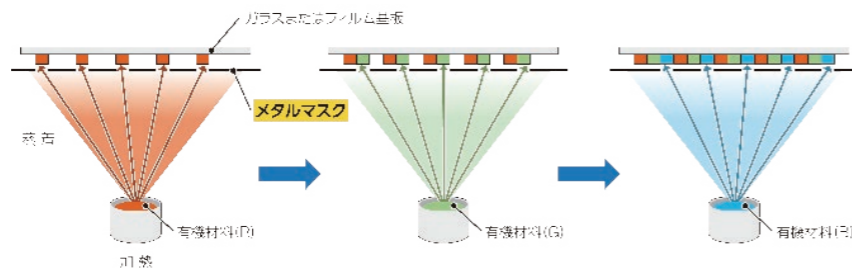


65インチ用フィルムを効率良く取ることができる2,500mm幅対応の広幅ラインのイメージ

メタルマスク

多様な有機ELディスプレイ(OLED)の高精細化・大型化に貢献

独自のフォトリソグラフィ技術とエッチング技術を活かし、スマートフォン向けを中心に、世界トップシェアを獲得。また、材料や製造方法、製品に関する特許やノウハウを幅広く保有。優れた技術開発力や、高品質・高精度な製品を安定して供給する能力などが高く評価されています。



有機ELパネルの製造時に、光の三原色(RGB:赤緑青)の有機材料を画素ごとに基板上に微細に形成する工程で、DNP製のメタルマスクが使用されます。メタルマスクは微細な穴を精密に配置した金属板であり、RGBの有機材料を精密かつ正確な位置に付着させるために、穴の位置・大きさに高い精度が求められます。DNPの高い精度を誇るフォトリソグラフィ技術やエッチング技術が大きな強みとなっています。

基本戦略

エレクトロニクス部門

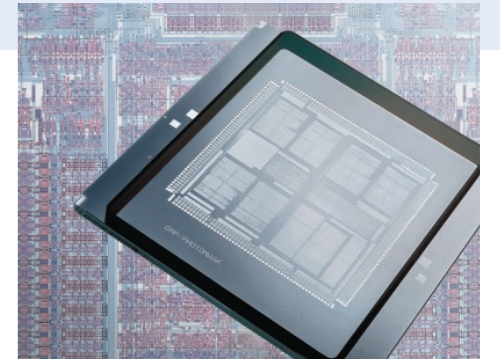


- 積極的な設備投資で既存事業の拡大を加速
- コアバリューを活かした新製品開発や、国内外の企業との協業・サービス開発を検討

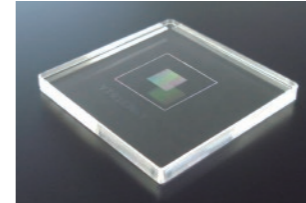
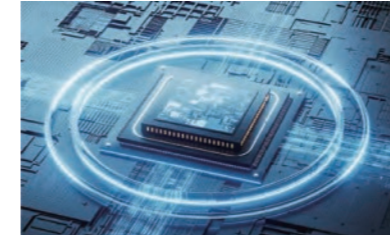
注力事業領域 / 成長牽引事業

半導体関連

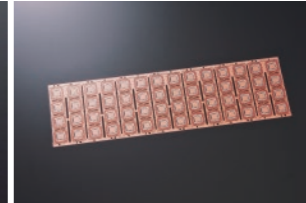
半導体製品の製造用フォトマスクおよび半導体パッケージ用部材のリードフレームを中心に、半導体サプライチェーンのなかで必要不可欠なファインデバイスを提供しています。フォトマスク等の生産能力拡大に向け、国内外の生産拠点で総額200億円以上の設備投資を計画し、外部とのアライアンスも推進していきます。また、半導体製造工程での消費電力削減という効果もあるナノインプリント技術の開発にも注力。SCIVAX株式会社との資本業務提携を行い、共同出資会社であるナノインプリントソリューションズ株式会社を通じて、モバイルデバイス用光学素子やバイオデバイス素子などの量産化を加速します。これらにより、当事業の2025年度売上を、2022年度比115%へと拡大していきます。



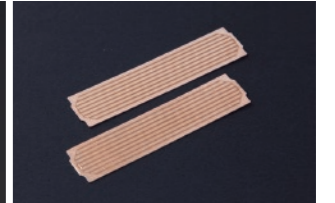
半導体用回路基板(フォトマスク)



ナノインプリント用基板



小型半導体パッケージ用リードフレーム



ペーパーチャンパー(金属製放熱用部材)

ナノインプリント製品を量産する
ファウンドリー事業で資本業務提携

DNPの強みである最先端ナノインプリント用原版(マスターモールド)製造技術と量産・品質管理のノウハウ、SCIVAX社の強みである高精度な量産製造設備と装置設計技術等を掛け合わせていきます。国内外メーカーの量産ニーズにも迅速に対応できる体制を日本国内で整備するとともに、グローバルなサプライチェーンリスクへの対応にもつなげていきます。

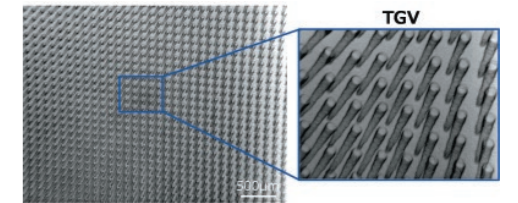


TOPIC 2023年6月1日発表

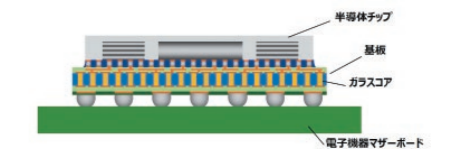
「半導体・オブ・ザ・イヤー2023 半導体用電子材料部門」
でグランプリを受賞

TGV ガラスコア基板が次世代半導体の製造を支える製品として高く評価

DNPは、次世代半導体パッケージ用に「TGV(Through Glass Via : ガラス貫通電極)ガラスコア基板」を開発。FC-BGA(Flip Chip-Ball Grid Array)など従来の樹脂基板をガラス基板に置き換える製品で、高密度なTGVは従来より高性能な半導体パッケージの提供を可能にします。また、パネルの製造プロセスを適応させることで、高効率・大面積化にも対応します。産業タイムズ社主催の「半導体・オブ・ザ・イヤー2023」の半導体用電子材料部門で、半導体製造を支える製品として高く評価され、2023年5月にグランプリを受賞しました。



開発したガラスコア基板の貫通電極(TGV)X線画像



ガラスコア基板が使用される箇所

Pickup News

2023年10月4日発表

BPO拠点を中四国エリアで初めて広島に開設し、国内16カ所に拡大 ～コンタクト業務を全国1,600席規模に広げ、企業等のニーズに迅速かつ効率的に対応～

大日本印刷株式会社(DNP)と株式会社DNP コアライズは、企業の顧客等とのコンタクトやバックオフィスなど幅広い業務を代行するBPO(Business Process Outsourcing)事業の強化に向け、2023年10月、広島県広島市にBPO運用拠点を新設しました。この広島コンタクトセンターは、マーケティング関連の技術支援や、企業が見込み客にアプローチするセールスアウトバウンドなど、高度なオペレータースキルが必要な業務を中心に運用します。中四国エリア初の拠点開設により、国内16拠点でBPO事業を運用していきます。

DNPグループは、国内全体のアウトソーシング需要への対応強化に加え、事業継続計画(BCP)の一環で自然災害や通信障害等のリスクを分散し、一層強靱な体制を確立します。最新技術を活用した効率的で満足度の高いサービスの提供にも努め、より幅広い業務に柔軟に対応し、BPO事業をさらに拡大していきます。



BPO事業(イメージ)

2023年7月31日発表

XR・ブレインテック事業を展開するハコスコをグループ会社に ～同社の強みを掛け合わせ、XRコミュニケーション事業や新規事業を推進～

DNPは、XR(Extended Reality)関連のスタートアップ企業・株式会社ハコスコの発行株式の51%を取得してグループに迎えました。同社は、メタバースの構築・運用や基盤開発等の「XR事業」に加え、脳科学とテクノロジーを組み合わせた「ブレインテック事業」で強みと実績を持つ「実験カンパニー」です。

DNPは、2023-2025年度の中期経営計画で、注力事業領域の一つに「コンテンツ・XRコミュニケーション関連」を位置づけています。積極的な投資により、2025年度にはこの事業の売上を2022年度比2倍超に成長させる計画です。今回ハコスコをグループに迎えることで、相互の強み・ノウハウ・ネットワークを掛け合わせ、リアルとバーチャルの空間の融合で人々の体験価値を高めるXRコミュニケーション®事業や新規事業を拡大させていきます。



ハコスコメタバースオフィス

<https://space.hacosco.com/hacosco/>



都市における新しい森づくり「市谷の杜(いちがやのもり)」の取り組み

～環境省「自然共生サイト」に選定(2023年10月10日発表)、
第43回「緑の都市賞」の「国土交通大臣賞」を受賞(同10月17日発表)～

DNPは本社敷地内(東京都新宿区)で、「都市における新しい森づくり」として「市谷の杜」を育てています。かつてこの地に広がっていた武蔵野の雑木林をイメージし、落葉広葉樹を中心に常緑樹を織り交ぜた多様性あふれる「自然に近い森」を育成。2015年から段階的に拡大し、2023年現在は総敷地面積の約3割に当たる15,000㎡を緑化しています。専門家による管理に加え、社員が日常的な観察や維持管理を進めており、植栽管理のタイミングの適正化や効率化、課題の発見と解決に役立てています。

「市谷の杜」は、環境省が認定する「自然共生サイト」に2023年10月に選定されたことに加え、第43回「緑の都市賞」(公益財団法人都市緑化機構主催)の「国土交通大臣賞」を受賞しました。生物多様性の保全が図られている区域として、地域在来種からなる緑地づくり、人工地盤上の肥沃な土壌による緑化、社員による積極的な維持管理体制などが高く評価されました。

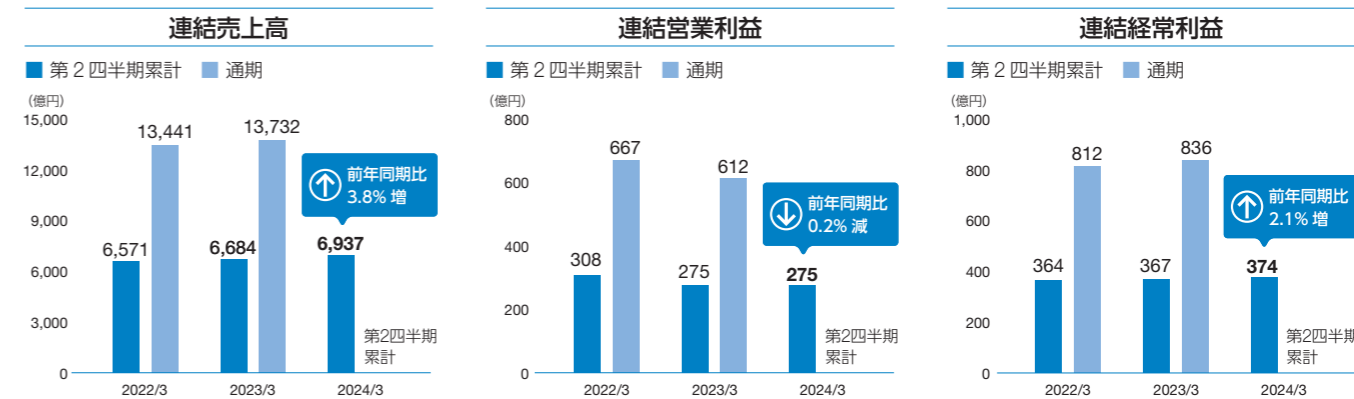


「市谷の杜」を含むDNPの本社周辺

2024年3月期第2四半期決算のご報告 (2023年4月1日～9月30日)

連結業績の概況 (単位:億円)			連結業績の予想 (単位:億円)	
科目	当第2四半期	前第2四半期	科目	2024年3月期通期(対前期増減率)
売上高	6,937	6,684	売上高	14,100 (+2.7%)
営業利益	275	275	営業利益	670 (+9.4%)
経常利益	374	367	経常利益	780 (△6.8%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	762	279	親会社株主に帰属する 当期純利益	880 (+2.7%)

1株当たり当期純利益346円35銭



親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)			連結貸借対照表(要約) (単位:億円)		
期	第2四半期累計	通期	科目	当第2四半期 連結会計期末	前連結会計年度末
2022/3	338	971	資産の部	18,633	18,303
2023/3	279	856	流動資産	8,104	8,029
2024/3	762	762	固定資産	10,528	10,273
			負債の部	6,872	6,821
			流動負債	3,935	3,985
			固定負債	2,936	2,835
			純資産の部	11,761	11,482

スマートコミュニケーション部門 ライフ&ヘルスケア部門 エレクトロニクス部門



写真プリント用昇華型熱転写記録材

売上高 3,505億円 前年同期比 0.8%増
営業利益 85億円 前年同期比 9.2%増

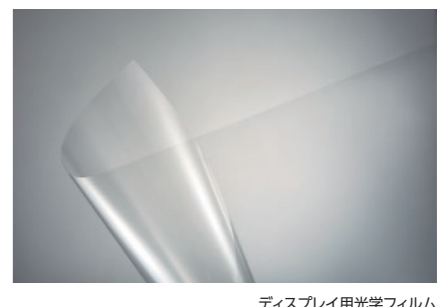
写真のプリント用部材が好調に推移したほか、BPOの大型案件やICカードが増加したものの、紙媒体を中心とした減収などの影響を受けたことにより、増収・減益となりました。



リチウムイオン電池用バッテリーパウチ

売上高 2,317億円 前年同期比 6.7%増
営業利益 51億円 前年同期比 78.7%増

原材料費や物流費等の上昇の影響を受けましたが、リチウムイオン電池用バッテリーパウチや太陽電池用部材などの、注力事業や収益性の高い製品が増加し、増収・増益となりました。



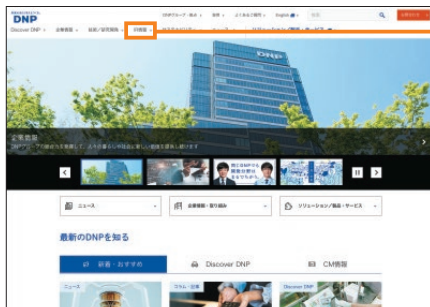
ディスプレイ用光学フィルム

売上高 1,126億円 前年同期比 7.8%増
営業利益 250億円 前年同期比 2.7%減

デジタルインターフェース関連は、有機ELディスプレイ製造用メタルマスクが堅調に推移し、光学フィルムが増加したものの、半導体関連の売上の減少などにより、増収・減益となりました。

■ DNPのウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトでは、最新ニュースやIR情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しています。



〈トップページ〉



〈IR情報トップページ〉

● DNPのウェブサイトURL

トップページ→ <https://www.dnp.co.jp/>

IR情報はこちら→ <https://www.dnp.co.jp/ir/>

株主通信「DNP Report」はこちら→ <https://www.dnp.co.jp/ir/library/dnp-report/>

会社情報

商号	大日本印刷株式会社 (Dai Nippon Printing Co., Ltd.)	設立年月日	1894年(明治27年)1月19日
本社所在地	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号	資本金	1,144億6,476万円
ウェブサイト	https://www.dnp.co.jp/	発行済株式総数	292,240,346株(自己株式 40,316,965株を含む)
創業	1876年(明治9年)10月9日	株主数	26,043名(2023年9月30日現在)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。(当社のウェブサイト https://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1. 住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 証券会社等に口座をお持ちの株主様
株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
- 証券会社等に口座を開設されていない株主様(特別口座)
(お問い合わせ先) みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
(お手続き窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申し上げます。

2. 未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

- (お支払窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ銀行 本店および全国各支店

※単元未満株式に関するお知らせ

100株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(100株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買増請求につきましても、お取り扱いしております。

●株主通信「DNP Report」に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社 IR・広報本部 IR室

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 TEL : 03-3266-2111(大代表)

※株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。
記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。
※記載されている会社名、製品・サービス名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。